

Kagawa Plan2025

2022年度 事業計画

学校法人 香川栄養学園

目次

- 【建学の精神と将来像】 ③
- 1 教育改革 ④
 - (1) 女子栄養大学 ④
 - 事業目標 ④
 - 中期計画コード ④
 - 目標値 ④
 - 活動概要 ④
 - 所管部署（委員会） ④
 - (2) 女子栄養大学短期大学部 ⑧
 - (3) 香川調理製菓専門学校 ⑫
 - 事業目標 ⑫
 - 中期計画コード ⑫
 - 目標値 ⑫
 - 活動概要 ⑫
 - 所管部署（委員会） ⑫
- 2 法人改革 ⑭
 - (1) 人材育成と組織体制の整備 ⑭
 - 事業目標 ⑭
 - 中期計画コード ⑭
 - 目標値 ⑭
 - 活動概要 ⑭
 - 所管部署（委員会） ⑭
 - (2) 附帯・補助活動事業および収益事業の整備 ⑭

事業目標	14
中期計画コード	14
目標値	14
活動概要	14
所管部署（委員会）	14
（3）ガバナンス・情報公開の整備	18
事業目標	18
中期計画コード	18
目標値	18
活動概要	18
所管部署（委員会）	18
（4）危機管理体制の整備	18
事業目標	18
中期計画コード	18
目標値	18
活動概要	18
所管部署（委員会）	18
（5）校舎・施設整備	19
事業目標	19
中期計画コード	19
目標値	19
活動概要	19
所管部署（委員会）	19
3 財政改革	19
事業目標	19
中期計画コード	19

目標値.....	⑱
活動概要.....	⑱
所管部署（委員会）.....	⑱
予算編成にあたって.....	⑱

【建学の精神と将来像】

建学の精神	食により人間の健康の維持・改善を図る。
使命・目的	故香川昇三の遺志に基づき、国民の栄養生活改善を通じて生活の合理化を図り、もって日本文化の振興に寄与するため、教育基本法及び学校教育法に従い学校教育を行うことを目的とする。
教育理念	栄養学に基づいた食を通じて、建学の精神を実践できる専門家を育成する。
スクールモットー	食は生命なり
学園の将来像	<p>学生・生徒の確保と安定的な経営基盤を確固たるものとし、建学の精神（「食により人間の健康の維持・改善を図る」）具現化のために「食と健康」に関わるさまざまな課題を解決できる発信をしていく。</p> <p>◆「安定した運営」</p> <p>1) 安定した財政運営の学園 2) 将来構想を実現できる基盤を備えた学園</p> <p>◆「発信できる学園」を学園の中期ビジョンとして以下を目標とします。</p> <p>1) 教育と研究の成果を社会に還元できる学園 2) コンプライアンスを確立している学園 3) 情報共有できる学園 4) 情報公開できる学園</p>
第二期中期計画の基本方針・重点項目	<p>第一期中期計画の基本方針を継続し学生・生徒の確保を基本として収入の多様化を図り、一方で人件費をはじめとする支出の効率化を図り学園経営を行う。また、学校法人の社会的な公共性を鑑み学園事業における社会的責任（CSR）を全うすることにより、次世代社会の発展に貢献する。</p> <p>第二期中期計画の重点項目</p> <p>学校法人香川栄養学園は基本方針を達成する為、「教育改革」「法人改革」「財政改革」の3つの改革を設定し実施する。</p> <p>【1】教育改革</p> <p> 栄養学のパイオニアである本学の教育を発展させると共に教育を支える研究環境、教育支援環境の整備も平行し実施する。</p> <p>【2】法人改革</p> <p> 大学院・大学、短大部、専門学校の教育事業および生涯学習・附帯事業、収益事業の事業部の改革を実施する。</p> <p>【3】財政改革</p> <p> 18歳人口減少期における学園財政の改革を実施する。</p>

1 教育改革

(1) 女子栄養大学

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【教育改革・教育強化】</p> <p>①FD（学外を含む）を通じて教育力や研究力の強化を図るとともに、改善された教育力を評価する制度を整備する。</p>	教学 A-2		・ 学内研修会の計画的な企画・実施及び学外研修の情報提供とともに、それを教員評価に適切に反映する仕組みを検討する。	FD 運営委員会、研究支援課、学長事務課
②入学定員割れをしている学科等については、カリキュラム・教育内容・コース内容等の見直しを進め、厳しい局面の打開をはかる必要がある。	教学 A-2		学部長、学科長、教務学生部長をはじめ関係教職員で、現状課題の共有および解決への道筋をつけるべく協議する。そして、課題解決の具体的方法等を検討する目的で教職員からなるプロジェクトを発足させる。	坂戸教務学生部 学科長会議
③効率的な時間割編成をするため、講義科目は複数教員担当を止める、オムニバスを禁止、特別講師等の招聘を限定的にする必要がある。	教学 A-2		学科長会議や学科会議を通じて各教員の共通理解として浸透させる。	同上 学科会議
④学部・学科のコンセプトを明確にするため、カリキュラムや教育内容を検証し、場合によっては、改組も視野に入れた取り組みが必要である。	教学 A-2		学部長、学科長、教務学生部長をはじめ関係教職員で、現状および課題の共有をはかり、課題解決にむけて十分な協議を行う。 そして、改組の必要性等を含め具体的な方策を検討する。	坂戸教務学生部 学科長会議
⑤大学設置基準に規定している専任教員数を前提として、学部・学科教育に差し支えない範囲での見直しをはかる必要がある。	教学 A-2		学部長、学科長、教務学生部長をはじめ関係教職員で種々検討する。	同上
⑥開講科目数が多い学科については縮減を図る必要がある。	教学 A-2		学部長、学科長、教務学生部長をはじめ関係教職員で種々検討する。	同上
⑦業務のスクラップ・アンド・ビルドによる効率化（ルーティン業務の見直し）をはかる。			教務学生部内において、十分な議論を行い、ロードマップを明確にする。	坂戸教務学生部
⑧ICT スキル向上のための環境整備	教学 A-2		①ICT サポートに関する業務の見直し（自立支援） ②事例情報等の共有のための環境構築	情報・ネットワーク部
<p>【募集・入試改革】</p> <p>①募集の強化</p>	教学 A-3	<p>①高校内ガイダンス参加 320校 対応者 3000人</p> <p>②会場ガイダンス参加 60会場 対応者 650人</p>	<p>①高校生・高校現場との Face To Face の強化</p> <p>・ 高校内ガイダンス、会場ガイダンスについて、北海道・東北・甲信越までのエリアを対象に実施継続し、オープンキャンパスへの導引へと繋げる。</p> <p>・ 高校訪問による高校教員と情報共有化を図り、信頼関係を一層高める。</p> <p>・ オープンキャンパスについては坂戸 8 回、駒込 7 回を開催し各学科の特徴および学びの内容の理解を高め出願へと繋げる。</p>	入試広報課 入試委員会

		<p>③オープンキャンパス参加数（保護者除く）</p> <p>坂戸 2500 人</p> <p>駒込 350 人</p> <p>④WOC、SOC 参加数</p> <p>180 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平日、土曜日に実施する個別相談にて、オープンキャンパス未参加者等への大学理解を目的として引き続き実施する。 ②WEB・SNS・広報専門誌からの情報発信強化 <ul style="list-style-type: none"> ・受験生応援サイト（HP）を通じて各学科専攻の最新情報を発信する。 ・LINE 登録者へ向け、各種イベント、メディア情報について随時発信する。 ・既存の独自リーフレット（商品開発特集、スポーツ栄養、エイダイnavi、各種 DM）の継続し、タイムリーな情報提供を広く行っていく。 ・新規で科学専攻、短大を主とした「女子栄養大学で栄養士・管理栄養士を目指す（仮称）」の制作し、卒業後の紹介も含め、より多くの訴求を図る。 ③学内での情報共有の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・各学科と情報共有化を図り、最新の情報発信を高校現場へ発信していく。 ・広報部との情報の共有化を図り、ステークホルダーに向け認知を図る。 ④HP のリニューアル <ul style="list-style-type: none"> ・デザインを一新し、発信された情報をより簡潔に取得できるようにする。 ⑤在学生の可視化【学生サポーターの活用（スタッフとしての強化）】 <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスにおいて対応する学生への指導を強化すると共に HP や本学独自の紙媒体等において在学生からの情報発信を強化する。 ⑥教職員の可視化 <ul style="list-style-type: none"> ・大学にて高校生を迎え入れる側である「教職員」を見える化（動画）し、より身近な存在であることを示す。 	
②定員の確保	教学 A-3	・学部 各学科専攻において定員の確保	ステークホルダーへの認知強化を図り、学科専攻ごとの教育方針を十分理解した入学者の定員確保を目指す。	同上
③入試改革	教学 A-3		①刻々と変化する入試情勢を見極め 2023 年度入試から実践栄養学科において総合型選抜を導入し、素養のある学生の早期獲得と定員維持を図る。	同上

			<p>②今後の入試改革については動向を見極め大所高所の視点で継続して検討を図っていく。</p> <p>③定員確保維持の観点から最重要となる指定校の選定について、高校現場の現状を十分考慮しながら継続して検討を図る。</p>	
【学生支援】				図書館
①日本十進分類法新訂 10 版への移行	教学 A-4 A-5		本学で採用している日本十進分類法新訂 7 版（1961 年刊行）から最新の新訂 10 版（2014 年刊行）へ移行し、現在の社会情勢を反映した図書の分類に切り替えることによって、利用者の利便性をさらに高める。	
②非来館サービスの充実	教学 A-4 A-5		コロナ禍での非来館型資料提供サービスへの期待、書架の狭隘化の問題に対応するための電子書籍拡充に加え、新たに学外から電子リソースへアクセスできるように整備することにより電子リソース（データベース、電子ジャーナル、電子書籍等）の利用促進を図る。	同上
③施設設備の改善（一般教室・実習室の PC メンテナンス合理化）	教学 A-4	年 2 回を随時へ変更	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業で行っている一般教室等の PC のメンテナンス作業の省力化。 ・作業時間の短縮により実施回数を増やし、利用環境の改善とセキュリティリスクの低減を図る。 	情報・ネットワーク部
④施設設備の改善（求人情報検索システムのリニューアル）	教学 A-4		・基幹システムへの統合もしくは新プラットフォームへの移行。	同上
⑤メンタルケアの充実	教学 A-4	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター看護師、養護教諭、校医、産業医、精神科医の週あたりの面談回数合計 (坂戸) 2021:3 件/週 2022:4 件/週 2023:5 件/週 2024:6 件/週 	<p>①学び方・働き方の多様化にともなうメンタルケアを充実させる。</p> <p>②健康上支援を要する学生・教職員を的確に抽出し、情報共有ツールを活用しながら早期に対応する。</p>	保健センター

		2025:7件/週 (駒込) 2021:1件/週 2022:2件/週 2023:3件/週 2024:4件/週 2025:5件/週		
⑥健康情報収集・管理・共有の効率化と活用	教学 A-4	・保健センターマイ ページのアクセス件 数合計 (坂戸・駒込共通) 2021:10件/週 2022:20件/週 2023:30件/週 2024:40件/週 2025:50件/週 ・情報システム達成 率% 2020:50% 2021:60% 2022:70% 2023:80% 2024:80% 2025:80%	①健康調査のペーパーレス化 (情報収集効率化) ②保健センターマイページの拡充と継続可能性の確保 (管理の効率化) ③保健センターマイページによる情報共有の全学的浸透 (共通の効率化と活用) ④情報システム達成率は現状 50%と想定し、2025 年度までに完了させる。	同上
【研究強化】 ①研究時間の確保のため、授業担当時間の平準化を図る。	教学 A-5		・450 時間/年を超える専任講師以上の教員について、担当科目の見直し等 善後策を検討する。	学長事務課

<p>【研究強化】【財政面の安定・経費削減】</p> <p>②外部資金の確保のため、経常費補助金や科研費等の獲得を推進する環境を整備する。</p>	<p>教学 A-5, 10</p>		<p>・改革総合支援事業にて得点するための条件整備について各部署を支援し、科研費等を適切に獲得するため情報提供や管理・監査、研究倫理教育を促進する。</p>	<p>学長事務課、研究支援課</p>
<p>【人的育成・人事の改善】</p> <p>①教員人事計画の策定に備え、設置基準等に照らして現況を把握する。</p>	<p>教学 A-8</p>		<p>・定年を踏まえた人数や年齢構成の推移と担当する授業時間数や学生数を調査し、採用や昇任の適切な執行を支援する。</p>	<p>学長事務課</p>
<p>【教学組織マネジメントの改善】</p> <p>①教学マネジメントの改善のため、IR体制を整備する。</p> <p>②組織や会議の合理化のため、各種委員会等の現況を把握し、見直しを図る。</p>	<p>教学 A-9</p>	<p>①令和5年度開設</p> <p>②令和4年度上半期報告</p>	<p>①学園改革推進会議 IR 専門部会を発展的に改組する。</p> <p>②令和3年度の調査結果を検証し、必要に応じ改廃を提案する。</p>	<p>学長事務課</p>
<p>③教学関連 IR の強化（分析ツールの環境整備）</p>	<p>教学 A-9</p>		<p>分析ツール利用環境の整備。</p>	<p>情報・ネットワーク部</p>
<p>【認証評価】</p> <p>①大学機関別認証評価を受審し、適格性の証明を得る。</p>			<p>・自己点検評価書の作成（6月提出）を経て、10月の実地調査を遺漏なく取り運ぶ。</p>	<p>自己点検・評価委員会、学長事務課</p>

(2) 女子栄養大学短期大学部

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署（委員会）
<p>【教育改革】</p> <p>①社会人リカレント教育の再構築</p> <p>②コース制及び新資格設定に向け新カリキュラムの設定</p> <p>③長期履修制度の実質的活用のための開講方法を検討</p> <p>④高校生・社会人向け科目等履修制度の導入</p>	<p>教学 B-1</p>		<p>・社会人リカレント教育の再構築について検討委員会立ち上げる(2023年度30人確保を目指す)。</p> <p>・コース制の2023年度導入に向け検討委員会を立ち上げ他大学の状況について検討しているが今後は具体的な内容について決定する。基本的には2年生からコース別(進学コース、就職コース、キャリアアップコース、フォローアップコース等)となる。また、新資格・新カリキュラム設定に向け、過去5年間の授業評価及び卒業生調査等を精査し、新科目群を設定していく。</p> <p>・長期履修制度を利用する学生にとって不利にならないよう授業開講時期、時間割等の細部について検討していく。</p> <p>・高校生及び社会人にとって長期履修制度が実質的に活用できるための開講方法について、2023年度導入に向け検討開始する。具体的には、開講時期の検討</p>	<p>短大教授会代表メンバー</p> <p>短期大学部教務生課、入試部</p> <p>短期大学部教務学生課</p> <p>短期大学部教務学生課</p>

⑤第1期中期計画に引き続き、授業評価・学生満足度調の継承			<p>やオンラインによる授業の導入も視野に入れ検討し学則変更を行う。その際には在学生の聞き取り調査及び広報活動の方法を決定していく。</p> <p>・授業評価・学生満足度調査の結果に基づき更に改善していく。</p>	短期大学部教務学生課
<p>【教育支援・学生支援】</p> <p>①リメディアル教育のための専門部署の立ち上げ</p> <p>②社会人向けに多様な就職先の確保</p> <p>③専門学校との共同作業の実施</p> <p>④卒業生の実態把握</p> <p>⑤日本十進分類法新訂10版への移行</p> <p>⑥非来館サービスの充実</p>	<p>教学 B-2</p>		<p>・リメディアル教育充実に向け、教育支援担当部署または担当者（非常勤）の設置。カリキュラム（フォローアップ科目）の内容の見直しを行い、「基礎数学」を導入した。これまで「基礎化学」「国語」「基礎数学」を導入してきたが1年前期のみ開講であり、常に学修できる環境づくりとしてラーニングcommons等支援できる環境づくりについて検討していく。</p> <p>・社会人入学者を確保するためには就職先の新規開拓・支援強化する必要がある。</p> <p>・体験講座の立ち上げに向け、2021年度は専門調理実習として専門学校教員の協力により実施しているが、2022年度以降は開講科目以外での実施(料理実習等)についても検討していく。</p> <p>・卒業生アンケート実施を継承し、短期大学の教育に組み入れていく。</p> <p>本学で採用している日本十進分類法新訂7版（1961年刊行）から最新の新訂10版（2014年刊行）へ移行し、現在の社会情勢を反映した図書の分類に切り替えることによって、利用者の利便性をさらに高める。</p> <p>コロナ禍での非来館型資料提供サービスへの期待、書架の狭隘化の問題に対応するための電子書籍拡充に加え、新たに学外から電子リソースへアクセスできるように整備することにより電子リソース（データベース、電子ジャーナル、電子書籍等）の利用促進を図る。</p>	<p>駒込教務学生部</p> <p>駒込就職課</p> <p>駒込教務学生部</p> <p>駒込教務学生部</p> <p>図書館</p> <p>図書館</p>

<p>⑦学生サービスの向上（一般教室・実習室のPCメンテナンス合理化）</p> <p>⑧同上（求人情報検索システムのリニューアル）</p> <p>⑨教職員の能力向上（ICTスキル向上のための環境整備）</p>			<p>PCのメンテナンス作業を合理化することで年間の実施回数を増やし、利用環境の改善とセキュリティリスクの低減を図る。</p> <p>基幹システムへの統合もしくは新プラットフォームへの移行</p> <p>ICTのサポート業務を教職員のスキル向上のための自立支援へと転換し、併せて事例情報等を共有するための環境を構築する。</p>	<p>情報・ネットワーク部</p>
<p>⑩メンタルケアの充実</p>	<p>教学 B-2</p>	<p>・保健センター看護師、養護教諭、校医、産業医、精神科医の週あたりの面談回数合計</p> <p>（坂戸）</p> <p>2021:3件/週</p> <p>2022:4件/週</p> <p>2023:5件/週</p> <p>2024:6件/週</p> <p>2025:7件/週</p> <p>（駒込）</p> <p>2021:1件/週</p> <p>2022:2件/週</p> <p>2023:3件/週</p> <p>2024:4件/週</p> <p>2025:5件/週</p>	<p>学び方・働き方の多様化にともなうメンタルケアを充実させる。</p> <p>健康上支援を要する学生・教職員を的確に抽出し、情報共有ツールを活用しながら早期に対応する。</p>	<p>保健センター</p>
<p>⑪健康情報収集・管理・共有の効率化と活用</p>	<p>教学 B-2</p>	<p>・保健センターマイページのアクセス件数合計</p> <p>（坂戸・駒込共通）</p> <p>2021:10件/週</p> <p>2022:20件/週</p>	<p>健康調査のペーパーレス化（情報収集効率化）</p> <p>保健センターマイページの拡充と継続可能性の確保（管理の効率化）</p> <p>保健センターマイページによる情報共有の全学的浸透（共通の効率化と活用）</p> <p>情報システム達成率は現状50%と想定し、2025年度までに完了させる。</p>	<p>同上</p>

		2023:30件/週 2024:40件/週 2025:50件/週 ・情報システム達成率% 2020:50% 2021:60% 2022:70% 2023:80% 2024:80% 2025:80%		
【教職員の能力向上】 ①FD（学外を含む）を通じて教育力や研究力の強化を図るとともに、改善された教育力を評価する制度を整備する。 ②外部資金の確保のため、経常費補助金や科研費等の獲得を推進する環境を整備する。 ③研修会情報の発信、参加環境の設定(SD 強化) ④教員科研費獲得の義務化に向け条件の決定	教学 B-3		学内研修会の計画的な企画・実施及び学外研修の情報提供とともに、それを教員評価に適切に反映する仕組みを検討する。 改革総合支援事業にて得点するための条件整備について各部署を支援し、科研費等を適切に獲得するため情報提供や管理・監査、研究倫理教育を促進する。 研修会情報の積極的発信研修会など参加環境の改善として教職員へアンケートを実施し、全教職員年 1 回以上の参加できるように促す。 研究日(週 1 回)の導入に向け制度・条件の設定し、時間割調整を行っていく。	FD 検討委員会、研究支援課、学長事務課 学長事務課、研究支援課 総務課 駒込教務学生課
【広報】 ①定員確保の維持	教学 B-4	前年度学生数の維持	学部同様に募集強化を図ったうえで、教育法人を十分理解した入学者を確保する。	入試広報 入試委員会
【その他】 ①教学マネジメントの改善のため、IR 体制を整備する。	教学 B-4	令和 5 年度開設	学園改革推進会議 IR 専門部会を発展的に改組する。	学長事務課

(3) 香川調理製菓専門学校

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
①学習支援(一般教室・実習室のPCメンテナンス合理化)	教学 C-2	年2回→随時	手作業で行っている一般教室のPCメンテナンス作業の省力化 作業短縮時間により実施回数を増やし利用環境の改善とセキュリティの低減を図る。	情報・ネットワーク部
②教職員の能力向上(ICTスキル向上のための環境整備)	教学 C-3		ICTサポートに関する業務の見直し(自立支援) 事例情報等の共有のための環境構築	同上
【教育支援・学修支援】 ①日本十進分類法新訂10版への移行	教学 C-2 C-3		本学で採用している日本十進分類法新訂7版(1961年刊行)から最新の新訂10版(2014年刊行)へ移行し、現在の社会情勢を反映した図書の分類に切り替えることによって、利用者の利便性をさらに高める。	図書館
②非来館サービスの充実	教学 C-2 C-3		コロナ禍での非来館型資料提供サービスへの期待、書架の狭隘化の問題に対応するための電子書籍拡充に加え、新たに学外から電子リソースへアクセスできるように整備することにより電子リソース(データベース、電子ジャーナル、電子書籍等)の利用促進を図る。	同上
③メンタルケアの充実	教学 C-2	・保健センター看護師、養護教諭、校医、産業医、精神科医の週あたりの面談回数合計 (坂戸) 2021:3件/週 2022:4件/週 2023:5件/週 2024:6件/週 2025:7件/週 (駒込)	①学び方・働き方の多様化にともなうメンタルケアを充実させる。 ②健康上支援を要する学生・教職員を的確に抽出し、情報共有ツールを活用しながら早期に対応する。	保健センター

		2021:1件/週 2022:2件/週 2023:3件/週 2024:4件/週 2025:5件/週		
④健康情報収集・管理・共有の効率化と活用	教学 C-2 ・保健センターマイページのアクセス件数合計 (坂戸・駒込共通) 2021:10件/週 2022:20件/週 2023:30件/週 2024:40件/週 2025:50件/週 ・情報システム達成率% 2020:50% 2021:60% 2022:70% 2023:80% 2024:80% 2025:80%	・保健センターマイページのアクセス件数合計 (坂戸・駒込共通) 2021:10件/週 2022:20件/週 2023:30件/週 2024:40件/週 2025:50件/週 ・情報システム達成率% 2020:50% 2021:60% 2022:70% 2023:80% 2024:80% 2025:80%	①健康調査のペーパーレス化（情報収集効率化） ②保健センターマイページの拡充と継続可能性の確保（管理の効率化） ③保健センターマイページによる情報共有の全学的浸透（共通の効率化と活用） ④情報システム達成率は現状 50%と想定し、2025 年度までに完了させる。	同上

2 法人改革

(1) 人材育成と組織体制の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
①SD 研修の年次計画の作成と計画的実施	教学 A-8-1-1)、2) 教学 B-3-1) 法人 A-1	参加率 40%	「学校法人香川栄養学園 SD 計画」に基づき、研修体系(基礎的研修、階層別研修、業務別研修)を考慮した年次計画を作成する。 WEB 利用等受講しやすい工夫と検討を行い、実施計画に基づき研修を実施する。	総務課
②事務組織の改編	法人 A-1		少人数(1~2人)部署と業務を見直し他部署と統合する。このことにより更なる人材活用と業務効率化をはかる。	
③採用計画の見直し	法人 A-1		将来を見据えた新卒採用の検討と実施。 一定分野の知識や経験を有する者、必要な資格保有者等、中途採用の検討と実施。	
④適正な構成人数の基準化	法人 A-2		職員の労働時間等による情報分析。	
⑤就業関係規程の整備	法人 A-1		就業規則、介護休業規程、育児休業規程等の改定を実施	

(2) 附帯・補助活動事業および収益事業の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
①出版部組織の見直し	法人 B-1		人員数に応じた有効な組織の見直しと組織改編の実施。	総務課
②附帯事業部の組織の見直し	法人 B-1		人員数に応じた有効な組織の見直し。 マネジメント体制強化についての検討。	

<p>【出版部】</p> <p>①『栄養と料理』の収支改善</p> <p>②デジタル化への対応</p> <p>③食品成分表改訂（八訂）に伴うデータ本の売り伸ばし</p> <p>④世代交代ならびに営業力の強化</p> <p>⑤学内関連部署との連携</p>			<p>すでに編集・印刷費の削減、人員構成の見直しに着手。</p> <p>2021 年度から 2～3 年に亘って改善していく予定。</p> <p>2022 年度より「デジタルチーム」を発足。ネット販売や電子書籍の販売が伸びている現状を踏まえ、デジタル部門を充実させ、SNS 等を使った宣伝・販売力の強化、電子書籍・デジタルアプリ等の販売拡大、Web セミナー・Web マーケティング等の強化に注力する。</p> <p>2021 年度『調理のベーシックデータ』『80 キロカロリーガイドブック』などのデータ本の改訂に続いて、成分表関連データ本の改訂を進め、新刊・旧刊の売上増をはかる。</p> <p>今年度をもって管理職者 2 名が退職するため、スムーズな世代交代を進める。編集体制の改編ならびに営業課・マーケティング課を統合予定。人員不足の補完、運営の効率化、営業の販売力強化につとめる。</p> <p>生涯学習センター・代理部・広報部・栄養クリニックなど、業務上、出版と関係の深い部署との連携を緊密にし、情報発信の効率化、関連書籍の売り伸ばしを図りたい。また、出版部の出版社としての強みは学内に多くの学生・保護者を抱えていること。こうした足元との関わりを深めながら、情報を発信していくことが必要。このことは以前からの課題だったが諸般の事情で未着手。</p>	出版部
<p>【代理部】</p> <p>①収益の増加</p>		売上額 19000 万円維持	<p>HP リニューアル。ショールーム型 HP で商品情報を提供し来店数の増加を図る。ショールーム型 HP では営業時間と立地上の制約から来店できる顧客数が限られている為、店舗型 HP の立ち上げも検討する。しかし、店舗型 HP はネット上で購入できる反面、制作費用のコストがかかるため通信販売の利益推移を慎重に見極める必要がある。</p>	代理部販売課

<p>②経費削減</p>			<p>一般の通販サイトには膨大な種類と商品数が掲載されている為、本学独自の建学の精神に特化した商品を前面にアピールすることが重要となる。健康面で模索する方々をサポートできる販売を実施することで、栄養学出版物の販路拡大とクリニック入会に繋げたい。</p> <p>レジスター導入により商品情報の分析簡易化が進んだ結果、今後は帳票をもとにペーパーレス化を図る。</p>	
<p>【生涯学習センター】</p> <p>①新型コロナウイルス拡大前の受講者に戻す (新審査基準(2022年)の周知徹底)</p> <p>②WEB広告による新たな受験者の開拓</p> <p>③新規団体受験校や企業の団体受講を開拓</p> <p>④自治体検定の営業を継続</p> <p>⑤新規検定試験の開発に着手する</p>		<p>志願者数 4000 名目標</p>	<p>①今年度からの審査基準を一部変更(1級の受験制限廃止、二次試験の事前公表問題が全級1問)で、試験対策が容易とした。したがって、受験生の利便性がより高まったことを周知し受験生を確保する。</p> <p>②個人受験は、自宅、GBTテストセンター、提携会場での受験が可能となった(団体会場を利用せずに受験できるため、団体の負担が減少)。2月にHPをリニューアル、WEB(Twitter、YouTubeに加え、Instagram等)での広報を充実し、料理好きな方を対象とした新たな受験者の開拓を促進する。</p> <p>③栄養士・管理栄養士養成校に加え、中学校・高等学校の調理部、家庭科部、生涯学習センターの通信教育受講生等にDMを送付し、到達度の確認のツールとして、学生・生徒の受験を促進する。また、オンラインでの教員対象料検説明会小・中・高等学校対象に継続実施する。</p> <p>④江東区家庭料理検定に続く、自治体検定の採用自治体を開拓する。</p> <p>⑤現在のシステムを活かして、新規の検定試験の開発に着手する。</p>	<p>家庭料理技能検定課</p>
<p>①オンライン通信講座2講座を5月に開講する</p> <p>「女子栄養大学ヘルシー食事学」</p> <p>「食と健康」</p> <p>(共に文部科学省認定申請中)</p>		<p>オンライン講座 申込者数 500名目標</p>	<p>①四群点数法を身近な食事法として広めるため、オンライン講座「女子栄養大学ヘルシー食事学」(文部科学省認定申請中)を5月に開講する。また、給食産業界や食品業界・美容業界などに勤務する者の研修、教育用のオンライン講座「食と健康」(文部科学省認定申請中)を5月に開講し、ヤマノビューティメイトグループなど企業様へご案内し、団体受講の促進を図る。</p>	<p>生涯学習課</p>

<p>②既存講座の募集を新たに模索し、受講生のV字回復を促進</p> <p>③管理栄養士国家試験関連講座の売上増を目指す</p> <p>④学校部の学生募集の後方支援、出版部の売上に貢献する。</p> <p>⑤香川料理教室は、コロナ対策としてVOD講座を開発し、対面講座と併用する。</p> <p>⑥対面型講座は、VOD講座に移行を図る。 コロナが落ち着いたら、対面を再開する。</p> <p>⑦「栄養と料理一般講座」の改訂準備に入る。</p>		<p>栄養と料理講座 申込者数 870名目標</p> <p>管理栄養士関連講座 売上目標 3000万</p>	<p>②既存通信講座の募集方法を新たに模索し、さらなる受講者数の回復に努める。(V字回復に努める) 家庭料理検定の受験者、資料請求者をターゲットに案内書配布など、新たな募集方法を開発。</p> <p>③管理栄養士関連講座(オープン模試・ベーシック講座・eラーニング講座2種)の合計売り上げ3000万円を目指す。なお、eラーニングオープン模試を最新問題へ一部差し替えを令和4年度に実施する。</p> <p>④香川栄養学園が持つ知的財産を活用し、社会に還元するとともに、大学、短期大学、専門学校の学生募集の後方支援を行う。また出版部との連携強化を図り、出版部の売り上げに貢献する。(「栄養と料理」定期購読者増、及び参考書類)</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症拡大に伴い2年間中止となっている香川料理教室はVOD講座の開発と対面型を取り入れ受講生を確保する。</p> <p>⑥栄養学講座、家庭料理検定対策講座などは新型コロナウイルス感染防止対策としてVOD講座として開講する。</p> <p>⑦「栄養と料理一般講座」は、内容的に大幅に見直す必要があるという指摘がすでに何年も続いている。2~3年後の改訂に向けて、教員の協力体制、出版部への制作依頼などの準備に取り組む</p>	
---	--	--	--	--

(3) ガバナンス・情報公開の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
<p>【ガバナンス】</p> <p>①中期計画の進捗管理組織として将来構想委員会傘下に作業部会を設置</p>	<p>教学 A-11, 法人 C-1</p>		<p>第二期中期計画を実行性のあるものとする為、将来構想委員会に中期計画進捗管理作業部会を設置し PDCA 体制構築の一助とする。</p>	<p>将来構想委員会</p>
<p>②監事監査計画の作成</p>	<p>法人 C-1</p>		<p>監事との調整の上、令和4年度より監事監査計画を制定し業務監査の範囲を拡大する。</p>	<p>内部監査委員会</p>
<p>③会計監査人の選定方法の見直し</p>	<p>法人 C-1</p>		<p>会計監査人の選定に関しプロポーザル方式を導入し選定する。</p>	<p>総務部</p>
<p>【情報公開】</p> <p>①事業計画・事業計画の様式を改定</p>	<p>法人 C-1</p>		<p>第二期中期計画に沿った様式へ改定する</p>	<p>総務部</p>

(4) 危機管理体制の整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
<p>【危機管理体制の整備】</p> <p>①防災ネットワークの調査、連携</p> <p>②防災ネットワークを踏まえた、インフラ、備蓄の整備</p>	<p>法人 C-2</p>		<p>駒込、坂戸の地区別に、行政、地域などの、防災ネットワーク調査。</p> <p>防災ネットワーク図を作成し、自活するものを把握、整備する。</p>	<p>管理部</p> <p>防災委員会</p>
<p>③ iPad の利用を促進する。</p>		<p>対象機種 311 台</p>	<p>ペーパーレス化をはじめとして業務改革を目的として教職員に iPad を配付しているが、グループウェアやコミュニケーションツールとの併用により場所や時間を問わない連絡ツールとして非常に有用である事が明確となった。</p> <p>危機管理の一環として導入より4年が経過する令和4年度に新機種への交換を実施する。</p>	<p>管理部</p> <p>情報・ネットワーク部</p> <p>総務部</p>

(5) 校舎・施設整備

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
<p>【校舎整備計画の策定と実施】</p> <p>①両キャンパスのマスタープランを策定</p> <p>②駒込再整備計画の具体化</p> <p>③坂戸整備計画作成</p>	法人 D-1, 2, 3		<p>学園全体の、施設に係る長期ビジョンを描き、キャンパスごとのマスタープランを策定する。</p> <p>始動した駒込再整備計画を具体化し、軌道に乗せ、推進する。</p> <p>坂戸キャンパスの問題点を分析し、直近の整備計画を策定する。</p>	<p>管理部</p> <p>キャンパス構想専門委員会</p> <p>施設整備委員会</p>

3 財政改革

事業目標	中期計画コード	目標値	活動概要	所管部署(委員会)
<p>【計画的な開発、更新、修繕等による効率的な設備投資】</p> <p>①モノに関する情報の一元管理化</p> <p>②迅速な対応</p> <p>③計画的かつ効率的な対応</p>	財政 B-2		<p>施設、設備、機器、什器、物品、消耗品等々の情報を集約、管理する。</p> <p>トラブル等への迅速な対応を行い、現場負担をなくす。</p> <p>大きな案件は、施設整備委員会と調整し、計画的かつ効率的な対策を講じる。</p>	<p>管理部</p> <p>施設整備委員会</p>
<p>【支出抑制策】</p> <p>①コストデータの把握による一元管理化、集約化推進</p> <p>②コストデータの分析による抑制策の検討</p> <p>③コスト対効果の吟味</p>	財政 B-3		<p>発注管理を集約化し、購買の効率化を図る。</p> <p>支出傾向や過去実績、市場把握を行い、コスト削減を図る。</p> <p>効果に見合った投資であるかの吟味を行う。</p>	管理部

予算編成にあたって

2022 年度の予算申請にあたっては特に以下の点に留意して頂くようお願いします。

- 2021 年度までは数年に渡り毎年 2% の経費削減をお願いしてきました。この度は前年度比での申請額圧縮を求めることはしませんが、2022 年度は従来以上に難しい予算編成となることが予想されますので、前年度の予算申請額だけでなく数年間の実績も吟味、分析して、必要不可欠なものみの予算申請を行って頂くようお願いします。

2. コロナ禍の影響は今後も継続することが見込まれていますが、具体的な収支への影響は算定が困難であることから、コロナ禍により追加で必要になる支出は予備費を中心に対応することを想定しています。そのためこの度はコロナ禍対応の特別な支出（学生・生徒の入構禁止を前提としたオンライン授業のための教科書や教材資料送付など）を含めずに予算申請を行ってください。（除菌液等のウィズ・コロナとして日常的に必要な経費は含めて申請してください。）
3. いくつかの事業については長年にわたり不採算状態が続いており、これらについては学園全体の経営判断として対策を検討し日々努力しているところです。各種統計や社会の動向を察知し、かつては重要であっても現在は役割を終えつつあると思われるものについては同様の検討をお願いします。
4. 2022年度に予定されている事業について、本当に学生・生徒にとって必要不可欠のものであるか今一度見直し、「不要」なものはもとより、「不急」であるものについても先送りにするなどの選択肢を検討してください。
5. 新規案件や支出予算の増額が可能な余地は非常に限られています。予算申請が必要と判断される場合はそれが新規案件や支出予算の増額であることを明確にしたうえでその経費の捻出においても部署内で対応が可能であるかの検討をお願いします。また費用対効果についても分析し、特に事業部においては投資を何年で回収できるかについての予測もお願いします。
6. 学内で既に施行されている制度に従って予算措置がされているものもありますが、時代の動向や学園の将来像に鑑みて妥当かどうか、その制度見直しにまで踏み込んで検討をお願いします。

これらは例年にも増して厳しい内容となりますが、学園が現在置かれている状況や今後対処が求められる種々の状況から、上記のようなお願いをすることが避けられないとの判断に至ったものです。

2021年度はwith コロナのいわば最初の年度として不確定要素があまりに多く、従来の2倍に相当する1億円の予備費を計上しましたが、2021年度の上半期までの実績等から判断すると2022年度については特別大きな額の予備費を計上する必要はないものと考えております。

しかしながら一方で収入の減少は深刻なものになっています。2013年度から2018年度まで、学生・生徒募集のための教職員の努力や工夫が奏功して学生生徒納付金収入は48億円台で推移していましたが、2019年度からは一部の学科において定員割れが続くようになり、従来の水準を維持することができなくなりました。2021年度から始まった第二期中期計画では学費を適正水準に減額するとしており、2021年度には大学と短大の入学金を10万円引き下げました。仮に2022年度に2021年度と同程度の入学者があると仮定した場合でも、入学する学生が卒業する学生よりも少ないことにより前年度と比べ収入が大きく減り、45億円以下になることが予想されます。その他の収支状況が2021年度予算と同様であるとしたシミュレーションでは2022年度は1億2700万円の支出超過と試算されました。赤字予算とならないために調整可能な支出の範囲は限られております。人件費など代表的な固定費を除いた支出で支出超過分を調整しようとするすると予備費の減額を考慮しても約5.5%の支出の圧縮が必要になります。

冒頭でも触れましたが、この度は前年度比での申請額圧縮を求めることはしませんが、2022年度は従来以上に収支が逼迫することが予想されるため、各部署におかれましては学園全体で圧縮すべき支出の規模をご理解頂きつつ、前年度の予算申請額だけではなく数年間の実績も分析したうえで申請を行い支出の圧縮にご協力をお願いします。

中でも新規案件については、それが継続的な負担増につながる場合もありますので特に慎重に判断することが必要です。費用に対して十分な効果が得られることが見込まれるかどうかを十分に吟味し判断してください。

昨年から猛威を振ってきた新型コロナウイルス感染症についてはまだ先が見通せない状況が続いていますが、夏には1年先送りになっていた東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど一部で経済正常化へ向けての動きもみられています。それでもコロナ前の日常生活を十分に取り戻すには至っておらず、現在はどんな業務を行う場合でもコロナの影響を考慮に入れずに遂行することができない状況です。しかしどのような状況下でも学生・生徒にとって教育を受ける機会を先送りできるものではない貴重な機会であるため、安心・安全だけでなく魅力あるキャンパス作りをソフト・ハード両面において目指さなければならないと考えています。種々の制限の中で業務を遂行しなければならないことには困難を覚えることが少なくないことと推察しますが、学生・生徒には常にできる限りの教育機会を提供し続けるようご協力をお願いします。

注) : 中期計画コード : 中期計画の区分A・B・Cと区分下の1・2・3を組み合わせた符号をコードと呼ぶ